

2026年2月初旬以降、順次配本予定

『あいたくて ききたくて 旅にでる』(2019年)が累計1万部突破し、『忘れられない日本人』(2024年)でも支持を集めつづけている民話採訪者・小野和子によるPUMPQUAKES第三作目の著書。長らく絶版となっていた『みちのく民話まんだら—民話のなかの女たち』の増補新装版とあわせて『みちのく民話まんだら—民話のなかの男たち』の初版も上梓する。口から耳へと語り継がれた民話一話ごとに、半世紀にわたり民話を聞き訪ねつづけた著者ならではの「あと語り」が付されることで、語りの奥底にある生活感情や精神性もあらわにする。



みちのく民話まんだら—民話のなかの女たち [増補新装版]

ISBN978-4-9911310-2-8 C0395 本体2,200円+税 284頁/B6変形判

第一話 うめにうぐいす	第八話 幸吉谷地	第十四話 うた女房
第二話 お伊勢まいり	第九話 炭焼藤太	第十五話 食わず女房
第三話 おーやれやー	第十話 戸お あけろー	第十六話 猫淨瑠璃
第四話 眠かけおそよ	第十一話 薦の年越	第十七話 琴の稽古
第五話 姥捨山	隨筆 お話乞食の旅をつづけて	第十八話 お月お星
第六話 山姥の万年機	第十二話 鯉嫁さん	第十九話 猿の嫁ご
第七話 毒殺、毒消し	第十三話 屁ったれ嫁さん	あとがき(一九九八年 初版に際して)

民話は、わたしたちの先祖が生活のなかにある喜びや、悲しみや、苦しみを、長い時間かけてとろ火で煮詰めるようにしてつくり上げた種だと思います。種は、それを受けとて育てる人の胸に芽吹いて、それぞれの花を咲かせます。



みちのく民話まんだら—民話のなかの男たち [初版]

ISBN978-4-9911310-3-5 C0395 本体2,200円+税 302頁/B6変形判

第一話 のんびり卵	第九話 しんかめ しんかめ	第十七話 歌うしゃれこうべ
第二話 ほら ほら (お化けキノコの巻・大ユリ根の巻)	第十話 宝手ぬぐい	第十八話 天下の迷医
第三話 よしつ俺も度胸きめる	第十一話 ちり ほこり ごもく	聞き書き 民話のなかの男たち・民話を語る男たち
第四話 雲に隠れて	第十二話 ふしぎなカナヘビ	第十九話 花咲かじじ
第五話 ほらくらべの大会	第十三話 タラの婚さん	第二十話 木をくれた六地蔵さん
第六話 ふしぎなゆめ	第十四話 おばけ寺	第二十一話 おじいさんの戦争
第七話 夜逃げわらじ	第十五話 おっちょろ ちょろ ちょろ	(戯闘の地になった村・川を渡ってきた母親と赤ん坊) あとがき
第八話 七歳の七月七日まで	第十六話 川ながれ童子	隨筆 池月駅

“土着の魂／旅人の眼”といった人がある。土着というもののありようを、おりにふれて土地の人は無知なわたしに教えてくれた。けれども、わたしは土地の人とはちがうもうひとつつのウツロをかかえた旅人もある。

著者：小野和子（おの・かずこ） 民話採訪者

1934年岐阜県高山市生まれ、宮城県仙台市在住。1969年から宮城県を中心に東北の村々を民話を求めて訪ね歩く民話採訪をひとりで始める。1975年に「みやぎ民話の会」を設立。以後、半世紀以上にわたり民話採訪の旅を重ね、著書『あいたくて ききたくて 旅にでる』(2020年)で、「鉄犬ヘテロトピア文学賞」と「梅棹忠夫 山と探検文学賞」受賞。NHK「こころの時代」に出演。近著に『忘れられない日本人——民話を語る人たち』(2024年)がある。

編集：清水チナツ 鈴木瑠理子 / 装画：工藤夏海

造本設計・デザイン：尾中俊介 / 印刷：ライブアートブックス

内容についてのお問い合わせや、取材、イベント等のご相談は
PUMPQUAKES (パンプクエイクス) 清水まで

TEL : 070-1409-0562 / MAIL : pumpquakes@gmail.com

▶ ご注文はツバメ出版流通まで FAX : 03-3721-1922 / TEL : 03-6715-6121 / MAIL : info@tsubamebook.com



貴店名（番線印）

PUMPQUAKES 新刊

www.pumpquakes.info

返品条件付注文扱い 返品了解 ツバメ出版流通：川人

注文数

みちのく民話まんだら—民話のなかの女たち [増補新装版]

著者：小野和子

冊 ISBN978-4-9911310-2-8 C0395 本体2,200円+税 284頁/B6変形判

みちのく民話まんだら—民話のなかの男たち [初版]

著者：小野和子

冊 ISBN978-4-9911310-3-5 C0395 本体2,200円+税 302頁/B6変形判

ご担当： 様